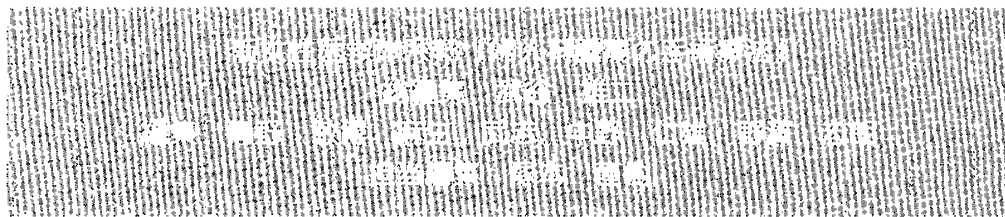


book review



中山書店 32,000円（消費税別）

新女性医学体系のシリーズの中の「婦人科腫瘍の手術療法」である。本シリーズは産婦人科臨床医として必読の書として位置付けられる。本書は総勢55名の執筆陣による「婦人科腫瘍の手術療法」の集大成であり、その内容は、婦人科腫瘍手術総論として、歴史、局所解剖がカラーを駆使してわかりやすく解説してある。続いて、各論として、外陰腫瘍、陰腫瘍、子宮頸部腫瘍（早期頸癌、進行頸癌）、子宮体部腫瘍、卵巣腫瘍、卵管腫瘍等の手術術式について実際に手術をされている腫瘍専門医が懇切丁寧に解説しているのが特徴である。必要なところはすべてカラーで実際の手術野の写真を示しながら解説してある。子宮頸癌の広汎子宮全摘術での基幹部切断や卵巣癌手術で大切な傍大動脈リンパ節郭清についても充分読みごたえがある。従来の手術解説書は比較的総論的な内容が多かったが、本書はまずどこから腹膜を切開して小腸を腸バッグにいれるのか、大動脈上の結合織を切開するにはどうしたらよいのか、大動脈下面のリンパ節切除はどのようにしたらよいのかなどについて実際の手術術式通りに展開しているので、各術者が日頃行っている手術風景が目浮かぶようである。本書は440ページであるが図表が多く実地臨床に役立つ専門書である。婦人科癌の手術を明日に控えた婦人科医の先生方、是非本書を読んでイメージを膨らませて手術に臨んで下さい。きっとお役に立ちます。婦人科腫瘍学を専攻している医師のみならずこれから認定医をめざす若手の医師にも是非読んで頂きたい本である。

浜松医科大学講師 小林 浩